

食品廃棄物のリサイクル推進について

1 食品廃棄物リサイクルの概要

食品リサイクル法（食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律）に基づく基本方針（令和元年7月）では、食品ロスの削減を含んだ食品廃棄物等の発生抑制に優先的に取り組んだ上で、再生利用等を推進することが示された。

そのうち、事業者は業種ごとに再生利用等の目標(*1)が定められている。

あわせて、家庭系と事業系の食品ロス削減をサプライチェーン全体で令和12年度までに半減させる目標(*2)が示され、食品ロス削減推進法に基づく基本方針でも、その目標を目指すこととされている。

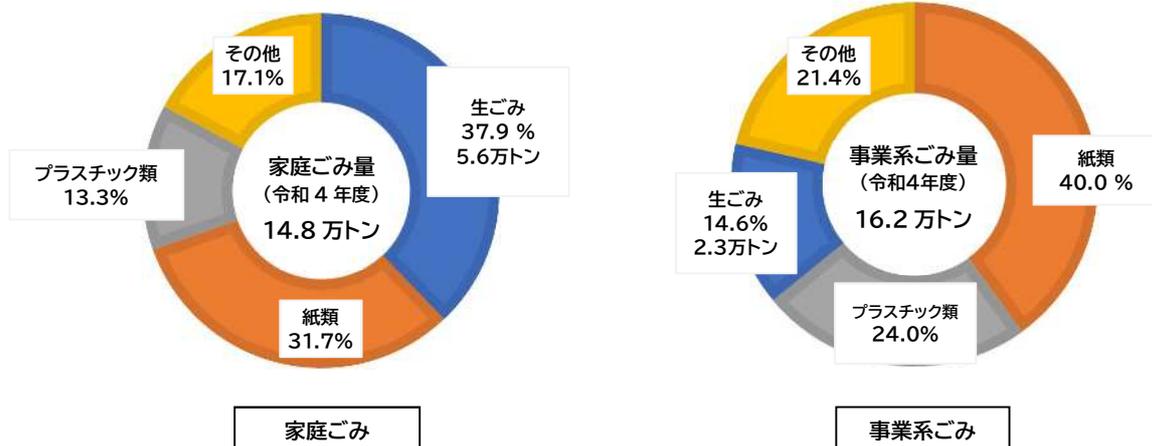
*1	業種別の再生利用等実施率の目標	食品製造業：95%、食品卸売業：75% 食品小売業：60%、外食産業：50%
*2	食品ロス削減目標	平成12年度比（980万トン）で、 令和12年度までに半減させる（489万トン以下）

2 北九州市における食品廃棄物の現状

家庭ごみ量は、平成18年に家庭ごみ収集制度の見直しや市民の3Rの取組などにより減少傾向にある。令和4年度の組成調査の結果では、生ごみが家庭ごみに占める割合は37.9%（5.6万トン）となっている。

事業系ごみ量は、平成16年に市収集の廃止や焼却工場への自己搬入ごみの処理手数料の改定などにより減少し、一旦、増加に転じたが近年は減少している。令和4年度の組成調査の結果では、生ごみが14.6%（2.3万トン）となっており、家庭系、事業系ともに生ごみが占める割合は多い。

○令和4年度ごみの組成調査



3 北九州市での食品廃棄物のリサイクルに向けた主な取組

(1) 生ごみリサイクル推進事業

市民センター等で生ごみコンポスト化の基礎知識や活用方法を学ぶ講座などを実施し、家庭の生ごみの減量リサイクルを図る取組を平成21年度から開催
(R4年度末で延べ228回 受講者延べ7,631人)

(2) 市民と飲食店が協働で取り組む「残しま宣言」運動

外食時の取組として(食べ切れる量の注文、開始30分・終了前10分などは食事を楽しむ時間を作るなど)飲食店だけでなく利用者の市民とともに実施を促す啓発を実施
食べ切り等を促す飲食店を「残しま宣言応援店」として登録し、市HP等で紹介
(R4年度末:307店舗)

(3) 食べきりBOX「ドギーバッグ」の配布

飲食店での食品ロス削減策としてドギーバッグ(余った料理を持ち帰るための紙製の箱)を作成し、残しま宣言応援店の希望店に配布(R4実績:31店舗)

(4) 民間企業による食品リサイクルの取組 別紙1

事業所等で発生する食品廃棄物を肥料または飼料としてリサイクルしている。

<実施企業> (株)ウエルクリエイト(肥料化) / 北九州エコレム協同組合(飼料化)



残しま宣言応援店ステッカー



食べきりBOX

4 横浜市での主な取組 (出典:横浜市HP)

(1) 生ごみブレンドプロジェクト

生ごみの減量リサイクルのため、生ごみと土を混ぜて堆肥化し、その堆肥をプランターで活用する方法等を講習会やパンフレットなどで紹介。実践する団体に、野菜や花の苗、プランターなどを支給

(2) 食べきり協力店の推進

事業所から排出される生ごみや食べ残し等の削減を推進するため、食べ残し等の削減に取り組む飲食店や宿泊施設等を「食べきり協力店」として登録するとともに、その取組を広く紹介することで、食べきりの推進に向けた意識を啓発

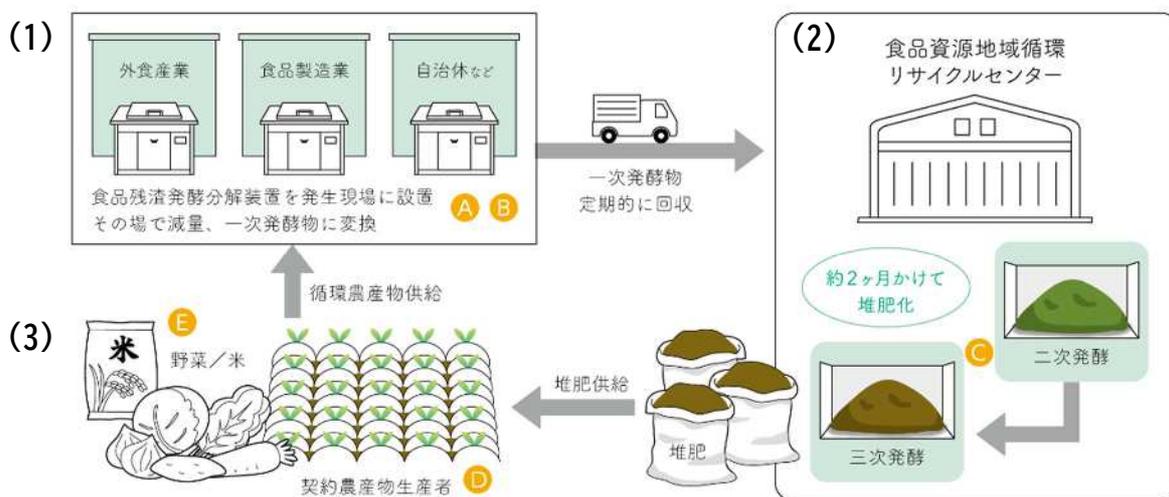
(3) 民間企業による食品リサイクルの取組 別紙2

事業所等で発生する食品廃棄物を、主に肥料化・堆肥化・飼料化・メタンガス化などのリサイクルを推進

<実施企業> 横浜環境保全(株) (肥料化) / 三友プラントサービス(株) (飼料化)
(株)デスポ (肥料化) / (株)J バイオフードリサイクル (メタンガス化)

【地域食品資源循環ソリューションの取組について】

- 1 実施企業：株式会社ウエルクリエイト
(資本金：45,000千円 契約団体：市内30カ所 受入量：6トン/日)
- 2 所在地：北九州市若松区向洋町10-1
- 3 事業内容：地域食品資源循環ソリューション事業
 - (1) 食品関連事業者の事業所内に「食品残渣発酵分解装置」を有償貸与
その場で食品残渣を分解・減量・一次発酵を行う
 - (2) 食品残渣を分解した「一次発酵物」を回収（有償買取）、リサイクルセンター
で堆肥化
 - (3) 再生堆肥を土壌改良材として、契約農家に提供し、循環農作物を生産



(出典：(株)ウエルクリエイトパンフレット資料)

【参考】(株)Jバイオフードリサイクル (神奈川県横浜市)

- 1 実施企業：(株)Jバイオフードリサイクル
 ※資本金：60,000千円 売上高：1,123,000千円
 ※参加企業：JEFグループ、JR東日本グループ
- 2 所在地：神奈川県横浜市鶴見区弁天町3番地1
- 3 事業内容：食品リサイクル・バイオガス発電事業
 肥料・飼料としての利用が難しく焼却処分されていたプラスチックや割りばし、爪楊枝等が混入している食品廃棄物を受け入れ、機械的に有機物のみを分別し、メタン発酵させメタンを採取。このメタンを燃料として発電し、売電。1日の発電量は一般家庭約3,000世帯分。また、窒素を多く含む発酵残渣は肥料化して活用。

(出典：2022年度版(株)Jバイオフードリサイクル環境活動レポート)